

2 - 5 常磐沖の NNE - SSW 方向, 長さ 120 km の断層系

On Faults System of NNE-SSW Direction and 120

Kilometers Length off Joban District

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

昭和 53 年, 水路部が行った常磐沖の 1/20 万海底地形と音波探査資料を再検討した結果, 小名浜の東方約 70km の深海平坦面を切る NNE - SSW 長さ約 120km の断層系が見つかったので報告する。手がかりとなったのは昭和 54 年 11 月, 海底地殻構造調査を目的として行ったマルチチャンネル反射法音波探査¹⁾である。

第 1 図および第 1 表に断層系の位置, 長さ, 形態を, 第 2 図に断層系を横切るシングルチャンネル及びマルチチャンネル反射法音波探査プロフィールを示す。

地形面や第四系～新第三系と推定²⁾される地層の変位変形, 震央分布³⁾との良い対応などから, この断層系は活断層の可能性が高く, 海域を含む東北日本南部の活断層系⁴⁾の一般走向 NNE - SSW は一層明瞭なものとなろう。 (桜井 操)

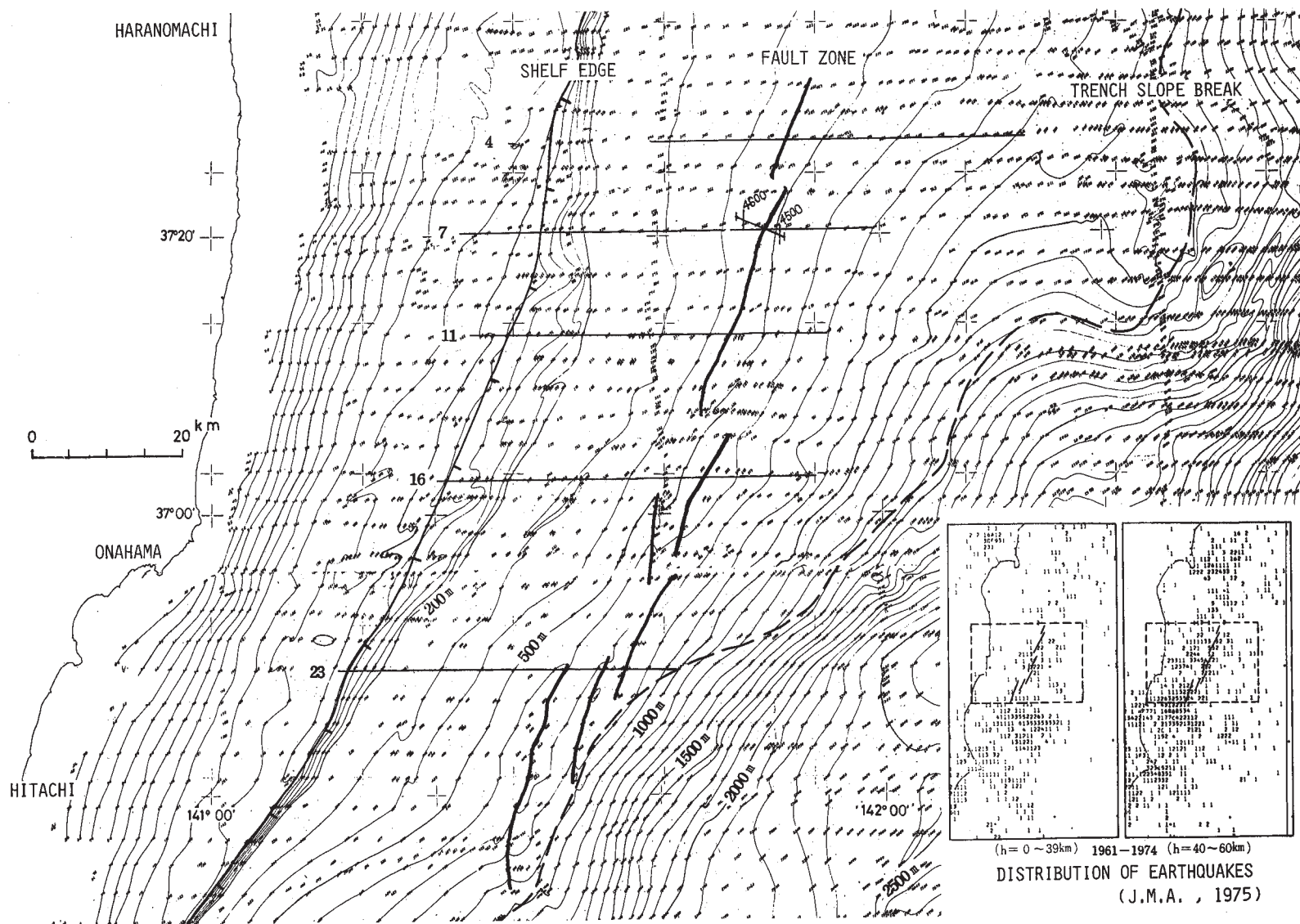
参 考 文 献

- 1) 海上保安庁水路部・工業技術院地質調査所: 阿武隈山地沖のマルチチャンネル反射法音波探査(2), 連絡会報, 25 (1981), 29 - 31.
- 2) 桜井 操・茂木昭夫・中条純輔・宮崎光旗: 常磐沖のマルチチャンネル反射法音波探査, 水路部研究報告, 16 (1981), 1 - 17.
- 3) 気象庁地震課: 1961 年～1974 年の日本付近の地震活動, 連絡会報, 14 (1975), 141 - 147.
- 4) The Research Group for Active Faults of Japan: ACTIVE FAULTS IN AND AROUND JAPAN: THE DISTRIBUTION AND THE DEGREE OF ACTIVITY, Jour. Natural Disaster Science 2, 2, 1980, 61 - 99.

第1表 断層系の位置・長さ・形態

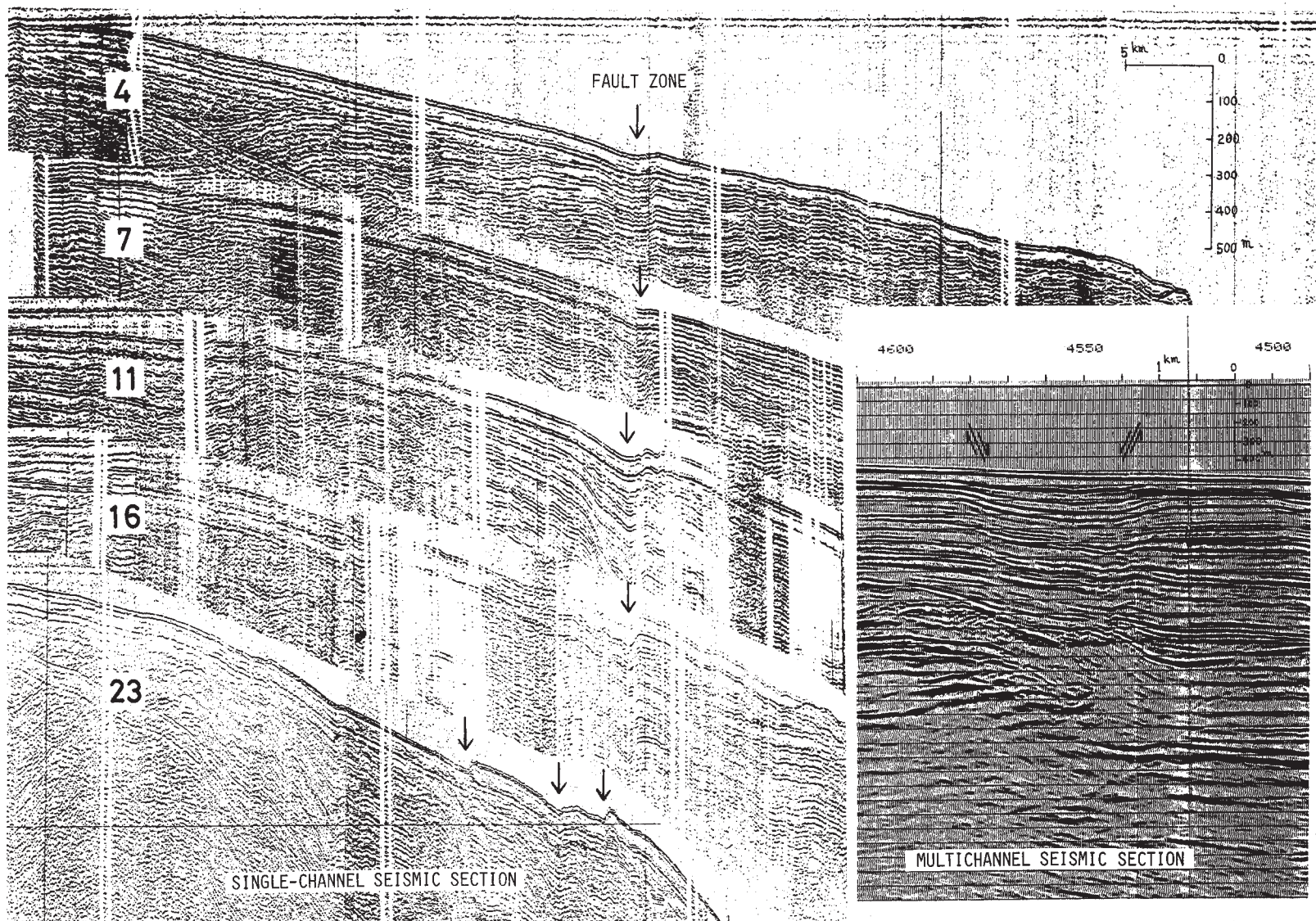
Table 1. Shape of faults system

位 置	原町 東方約 80 km, 水深約 460 m の地点から 日立 東方約 70 km, 水深約 850 m の地点まで
方 向	NNE - SSW
全 長	約 120 km
各々の断層の長さ	10 ~ 18 km
形 態	北部(原町~小名浜沖): 左雁行, 小地溝(幅 2 ~ 5 km)型 比深約 10 m の独立した凹地を伴う 南部(小名浜~日立沖): 右雁行, アンセティック, 西落ち断層型 比深 20 ~ 40 m の独立した凹地を伴う
	マルチチャンネルにより海底下約 2 km まで追跡できる



第1図 常磐沖のNNE - SSW方向、長さ120kmの断層系

Fig. 1 Faults system of NNE-SSW direction and 120 kilometers length off Joban district.



第2図 音波探査プロフィール

Fig. 2 Seismic reflection section.